

アサヒキャンプ名古屋の活動紹介パンフレットには

「私たちは、小中学生約30人と、大学生のアサヒキャンプカウンセラー25人が屋外や室内で一緒に楽しむ行事を行っています。

多くの学生に承認欲求を満たされることが特色で、参加の利点は

- ①自己肯定感が高まります
- ②人への興味を高めます
- ③遊びを通して人と関わる練習になります
- ④生活スキルの向上につながります
- ⑤学校宿泊研修への練習になります
- ⑥二次障害の軽減、予防につながります
- ⑦意欲が高まり、将来の目標設定につながります

に集約されると思います。」

と記しています。

この理由をもう少し説明させていただきます。

①自己肯定感が高まります

アサヒキャンプに参加すると、たくさんの学生たちにありのままの自分を認められて、時間を過ごすことになります。一緒に過ごし、たくさんおしゃべりしていると自然と笑顔が広がります。学生たちは大人よりも、ずっと長時間、子どもと一緒に過ごせます。承認欲求を認めている時間が長いのです。遊び、食事作り、出し物発表など何をやっても楽しいと思うようになります。

ホントかな、と思う人も多いと思いますが、これは試してみるのが一番です。試して、もし学生たちと過ごす時間がストレスになるようであれば、無理をしないほうがいいと思います。

②人への興味を高めます

発達障害の子どもたちの中には、人になかなか興味や関心を示さない子がいます。

このような子たちに、アサヒキャンプの場合はまず学生たちから、子どもたちに寄っていきます。興味をもって近づいてきてくれる学生たちに子どもたちは徐々に関心を向け始めます。

子どもから見て「信頼できる大人」が身近にいること。その環境が安心につながり、自分から聞いてみたり、お願いをしたりする経験になります。

アサヒキャンプに何度も参加していると、「アサヒキャンプなら学生が変わっても大丈夫。私はうまくやれる」という経験になっていきます。参加しているだけで、自然と社会性が育ちます。

③遊びを通して人と関わる練習になります

アサヒキャンプの活動は基本的に遊びです。デイキャンプも宿泊キャンプも、ずっと学生と子どもたちが遊びを中心に生活している時間を過ごしているといえると思います。

食事作りも、一緒に食べるのも、川遊び、キャンプファイアー、芝生広場で遊ぶのも、一緒に泊まるのも、すべて遊びと言えば遊びです。保護者も学校の先生もいない空間・時間です。

遊んでばかりで大丈夫？と不安に思うかもしれませんが、遊んでいるということは、本人が主体的に活動し

ているということです。

お兄さんお姉さんがそばにいる環境で、自分の力を試して、遊び、生活を通して、人と関わる。そして人と過ごして本人が「楽しかった」と思ったのであれば、次につながる大きな体験です。

④生活スキルの向上につながります

自分の持ち物を管理すること、起床、就寝を他の人と一緒に行うこと、食事を役割分担して作ること、あいさつ、着替えなど、キャンプ生活には生活スキルの向上につながるということがいっぱいあります。自分でできた！と思うことに大きな意味があります。

⑤学校宿泊研修への練習になります

学校宿泊行事は、きっと子どもは緊張すると思います。場所、スケジュール、人の動きの予行練習が事実上ないのでから。しかし、もし学校とは別の場面で、お友だち、学生たちと楽しく宿泊をした経験があればどうでしょうか。

別のところでの経験があれば、学校の宿泊行事も大丈夫！と思えるお子さんはいらっしゃると思います。

私たちが使う春日井市少年自然の家や、美浜少年自然の家は、実際に学校から行く宿泊研修の場所である子もいます。施設の景色、玄関、食堂、お風呂、宿泊室も、使ったことがあるだけで安心につながります。

「キャンプ」という言葉に強い抵抗感を示す子どもがいるというのは、その子にとって学校から行くキャンプが楽しくなかった、ということだと思います。

学校のキャンプはつらかったと心に刻まれる前に、別のところで楽しい宿泊体験しておくことは、学校での宿泊をプラスの経験に変えていくことにつながると思います。

⑥二次障害の軽減、予防につながります

小学校3、4年生から中学生にかけての時期は、学校生活で人間関係などで強いストレスが生じる子もいます。そんな時に、自分は別な場所で多くのお兄さんお姉さんに十分に認められているから大丈夫、と本人が思うことができたかどうか。

自己肯定感が十分にあれば、二次障害は小さくなると思います。もしかすると、事もなかったように乗り切れる可能性もあると思います。小中学校時代に人に認められる場所をキープし続けることは、それだけ重要だと思います。

アサヒキャンプの場合は、月に1日の行事参加であっても、多くの学生に承認欲求を満たされる経験になります。その1回に受け取るエネルギー量が大きいので、子どもの心の安定を保つことに有効である、と参加してくれた子どもたちを長年見てきて強く思います。

実際に認められることを強く意識して、子どもをアサヒキャンプに参加させる保護者もいらっしゃいます。

⑦意欲が高まり、将来の目標設定につながります

アサヒキャンプに長く参加していると子どもにどんな変化が起こるのでしょうか。

子どもは、自分のモデルとなる大学生のお兄さんお姉さんをたくさん見続けることになります。お兄さんお姉さんのようになりたい、と考える子も出てきます。また会いたいと強く思う気持ちが次への意欲になります。学生たちとたくさん会話を重ねて、自分自身を知り、自分には何ができるか考えることにつながります。

子どもたちは、自分たちを支えてくれる学生たちと長時間接していると、自分も何かしたくなります。自然と目標を考えるのだと思います。

アサヒキャンプの良さを、自分が納得できる説明で、発信していくことが私の長年の課題でした。

私がアサヒキャンプは子どもの成長に非常に有効であるとする根拠は、本田秀夫先生の本『自閉スペクトラム症の理解と支援 子どもから大人までの発達障害の臨床経験から』（星和書店 2017年）です。一部抜粋し、引用させていただき、アサヒキャンプの説明に使わせていただきます。

116 ページには

「何よりも大事なものは、本人の意欲を減らさないことです。」「何よりも自信と現実感の得られる生活環境を作っていくこと」「そのために、育児方針としては、保護的に構造化された環境を提供すること。得意なことを十分に保障すること。不得意なことに苦手意識を持たせないこと。大人と相談してうまくいったという経験を持たせること。こうしたことが重要だと考えます。」

と本田先生は書かれています。

読んで私が思ったことは、アサヒキャンプに継続して参加していれば、これらのことは小中学校時代に自然と身につくことだと思いました。

123 ページには

「社会参加可能性を測る目安として、私は「自律スキル」と「ソーシャルスキル」という2本の柱で考えています。自律スキルというのは、自分にできることは意欲的にやるけれども、できないことは無理しない。こういう判断ができる力です。ソーシャルスキルというのは、自分にできないと思ったことを誰かに相談する力と、人として最低限守るべきルールは守ることです。まとめると、一人でできないことをできないと判断し、他者に相談する力ということになります。」

と本田先生は書かれています。

これもアサヒキャンプに参加していれば、お兄さんお姉さんと接していく中で、自然と身につくと私は思いました。最低限守るべきルールも、野外での集団生活には、いつも存在しています。

私は本田先生の本を読んで、生きていく上で身につけるべき一番大切なことが、小中学時代にアサヒキャンプに参加していると自然と学べる、経験できると説明していいんだと解釈でき、納得したのでした。

私がこのような考えにたどり着いたのは、これまでに出会った子どもたち、保護者の皆さん、学生時代にアサヒキャンプカウンセラーとして活躍された方々、多くの関係者の姿が、本田先生の考察をお借りして、ひとつのストーリーにつながったからです。ご縁をいただいた皆様のおかげです。深く感謝申し上げます。